

輸送経済

2022年(令和4年)1月25日(火曜日)(1)

(SAS)の症状があるドライバーは、症状がないドライバーと比べ起床時の血圧が高いことが、睡眠時無呼吸症候群につながりやすく、ドライバーの健康起因事故の要因に挙げられており、健康管理の重要性が改められて浮かび上がった。

OCHIS×オムロンヘルスケア

ヘルスケアネットワーク 研究は、2021年5月(=OCHIS、武田裕司理事長)と健康機器を扱うオムロンヘルスケアの共同研究で明らかになつた。高血圧は循環器疾患人、陰性者が11人。就寝

10月に男性ドライバー21人を調査。事前にSAスクリーニング検査を終え、内訳は陽性者が10人、陰性者が11人。就寝

起床時の血圧に着目

SAS陽性者と相関性

時に手首式血圧計と血中酸素を計測するパルスマキシメーターを同時に装着し、3日間測定した。有効なデータを得られた14人(SAS陽性者、陰性者各7人)の結果、OCHISは「高血圧SAS陽性者は、就寝前と起床時共に陰性者と比べ血圧が高いことが分かった。特に起床時は3日間平均で、上の血圧(収縮期血圧)が131・0mmHgで、基準値を超過している。(遠藤仁志)

が87・2で、「拡張期の基準値85を超えている」(OCHIS)。一方で、陰性者の中には、性者の平均は収縮期119・6、拡張期78・7と基準内だった。